

## 日露隣接地域生態系保全協力プログラムについて

## 経緯

- ・ 知床の適正な保全管理を行うためには、オホーツク海など日露の隣接地域の生態系を把握することが必要であることから、日露環境保護合同委員会等の場でこの地域の生態系に関する情報の共有について議題としたい旨、平成 19 年 4 月、環境省から外務省に申し入れを行った。
- ・ 平成 19 年 5 月の日露外相会談等を経て、平成 20 年 7 月の洞爺湖サミットの際に首脳間での合意があった。その後、平成 21 年 5 月に日露の隣接地域における生態系の保全等に関する協力プログラムが署名されたところ。この協力プログラムに基づき、これまで、日露両国の政府関係者及び研究者の参加するシンポジウム、ワークショップの開催、我が国の専門家による北方四島への訪問と四島側専門家の受入れなどが実施されているところ。

## これまでの主な取組

## (オホーツク生態系保全日露協力シンポジウム)

平成 21 年 3 月、札幌において、日露両国の研究者の参加によりオホーツク生態系保全日露協力シンポジウムが開催された(外務省・環境省主催)。本年 5 月にもシンポジウムの開催を予定しているところ。

## (アムール・オホーツクコンソーシアム)

平成 21 年 11 月に日本、ロシア、中国の研究者等が参加するシンポジウムが開催された。この場において、日中露の研究者間で共同声明が採択され、研究者ネットワークである「アムール・オホーツクコンソーシアム」が設立された。

## (知床世界自然遺産地域管理計画)

平成 21 年 12 月策定の知床世界自然遺産地域管理計画において、「遺産地域の順応的管理を行うためには日露の隣接地域の生態系の状況を把握することも必要であることから、この地域の生態系の保全と持続的な利用に関して、日露間で情報の共有を図るなど、協力を進めていく。」と記述。

## (日露隣接地域生態系保全ワークショップ)

平成 22 年 4 月、ウラジオストクにおいて、日露両国の政府関係者及び研究者の参加により、日露隣接地域生態系保全ワークショップが開催された。

#### 今後の進め方（案）

- ・ 協力プログラム署名から一年余りが経過し、専門家レベルでの情報・意見の交換が積み重ねられてきたところであるが、今後は、協力プログラムに基づく協力の方向性や成果の具体的なビジョンを描いた上で、より体系的に情報を蓄積していくことが重要。
- ・ 具体的には、日露隣接地域における調査・研究を体系的に推進するための枠組みの構築や重点的に取り組むべき分野等を整理した調査・研究計画の策定などの検討を行うことを予定。
- ・ なお、知床の適正な保全管理を行うためには、オホーツク海など日露の隣接地域の生態系を把握することが必要であることから、知床世界自然遺産地域科学委員会と連携して取組を実施する。